

越後駒ヶ岳山行記録



目的地	越後駒ヶ岳	期 日	平成17年5月21日(土)
山人	笠原正雄単独	特 記	絶好の春山日和。しかし大きなミスをした山行だ。

地名	(着)～(発)	天候	記 事
与板	午前4:10発		臨出を断って、翌日より天気予報の良い本日に入山。少し風邪気味。
駒ノ湯登山口 P	5:30～6:00	快晴	除雪後一般車両が入れるようになって最初の週末。2台あり。パン、缶コーヒーで腹ごしらえ。吊橋は今度は板4枚が敷き詰めてある。歩き出して少し残雪のうち夏道が続く。15分後1枚脱ぐ。
ヤブコギ	6:45	〃	残雪で夏道を見失い10数分間ヤブと格闘する。夏道に戻って立ち休み。
栗ノ木ノ頭	7:30～7:40	〃	腰をおろして休む。予定通りのコースを歩いている旨を家に電話する。
雪の壁を上がる	8:15～8:20	〃	夏道を離れて歩くうち3m程の雪壁に突当たりピッケルに持ち替えてかき上がる。夏道に戻り5分後、5月1日の引返し地点に到達。
ニセ小倉急登	8:45	〃	夏道の鎖場を経て、本日最大傾斜の残雪を登る。途中一部露出した夏道上で立ち休み。先行者の踏跡は顕著でなく、ステップカットが必要な所もあった。後続者2名に追い越される。今度は彼らのステップを貰って登る。
ニセ小倉	8:55	〃	残雪最急登を終わり夏道に。この後小倉山まで再度残雪の登りとなる。
小倉山 T 字路	9:15～9:25	〃	ヤブをかき分け雪原のピークに出る。この後は樹木無しの雪上歩きとなる。ストックに持ち替える。遮る物無く、駒ヶ岳の全容を仰ぎ見る。
百草の池	10:05～10:20	〃	小倉山からここまで傾斜はゆるい。池は雪の下だ。頭を出した標柱でこの地点だと分かった。荒沢岳が全部見える。アイゼン・ピッケル歩行とする。
赤旗の小ピーク	11:00		池を過ぎてからひたすらの登りで、やや傾斜の緩んだ所で立ち休み。ここから小屋に向けて赤旗が数本施してある。
駒ノ小屋広場	11:30～11:40		この手前の登りは見た目ほど辛くは無かった。数人居た。小屋記帳者は8人、全員が駒ノ湯からで、道行山からの者は居ない。デポで山頂へ。
山 頂	12:00～12:10		山頂だけ雪が剥けている。先行者1名。中ノ岳・八海山に手が届きそうだ。下りはアイゼンを外して快適に下りる。
駒ノ小屋広場	12:15～1:20		皆下山して行き、俺一人となる。昼食。小屋番が出てきたので、しばらく会話する。下山開始直前小屋泊りの男女7名隊が来て賑やかになる。
小倉山 T 字路	2:05		アイゼン無し、ストックでの快適な下り。灌木で下りルート入口が分かりづらく、踏み跡も方々を向いている。ヤブをかき分け夏道を見つける。
ニセ小倉	2:30～2:45		居ないと思っていた後続者が一人来た。ここの降下で数十メートル滑落。重大事故につながり兼ねないミスだ。止まった所でアイゼンをつける。後続者に「大丈夫か」と声をかけて貰う。夏道に復帰しアイゼンを収納する。
栗ノ木ノ頭	3:15	〃	通過。
ヤブコギ	4:00	〃	上山時と同じ地点で残雪道迷い、しばらくヤブコギ、夏道へ出る。
駒ノ湯登山口 P	4:25	〃	ユビオ入浴。7時帰宅。喉が痛くて気になったが歩くうちに調子 OK。

5.1の引返しを経て今期前半の目標を絶好天に助けられて達成することが出来た。低湿度で晴れ渡り、小屋番も今季最高の眺めと言っていた。しかし大きなミスをしてしまったので、万々歳の山行とは言えない。上山時にはピッケルで上がった傾斜を無アイゼンとストックで下りたことがまずかったのだ。高気温で雪が緩んだとの慢心と、面倒臭いが原因だ。嚴重に肝に銘じなければならない。道行山経由も気分が良さそうだ、来春に行ってみようかと思う。